

北海道師範塾 「教師の道」 塾頭通信

第774号 平成26年7月24日

満足感と肯定感

内閣府が世界7カ国の13歳から29歳の男女を対象に意識調査を実施したところ、日本の若者達は他国の若者達と比較すると自己評価が低く、将来に希望を持っていないというショッキングな姿が浮かび上がって来ました。

まず、内閣府の調査結果を紹介しましょう。

この調査の目的は、我が国と諸外国の若者の意識を把握し、我が国の若者の意識の特徴等を分析し、その結果を政策に反映させる事にあります。

調査対象は、日本、韓国、アメリカ、英国、ドイツ、フランス、スウェーデンの7カ国の若者達であり、調査は昨年11月から12月までの間で行われました。

調査領域は、人生観関係、国家・社会関係、地域社会・ボランティア関係、職業関係、学校関係及び家庭関係の6領域に及び、調査項目も21項目と多岐にわたっています。

本日は、この調査の中から、人生観に関連する調査結果に関して考えてみたいと思います。

まず、「自分に対するイメージ」「自分についての誇り」「将来への希望」に関して、それぞれの結果を見て置きましょう。

上記の表は、調査結果の一部に過ぎませんが、これをご覧になって、日本の若者

自分についての誇り

項目	日	韓	米	英	独	仏	ス
自分の明るさに誇りを持っている	15.9	28.0	45.6	41.0	43.8	37.0	38.2
自分の賢さ、頭の良さに誇りを持っている	9.4	21.2	47.6	39.8	33.8	27.5	32.5
自分の決断力、意思力に誇りを持っている	8.5	15.8	43.4	33.5	32.5	32.1	37.3
自分の容姿に誇りを持っている	4.2	11.7	30.7	21.7	18.2	15.6	15.6

将来への希望

項目	日	韓	米	英	独	仏	ス
自分の将来に希望がある	12.2	41.9	55.6	44.3	27.1	24.0	51.6
自分は将来、世界で活躍している	3.1	13.0	17.9	18.3	7.0	7.3	15.0
自分は将来、多くの人の役に立っている	6.1	17.3	27.5	18.3	14.3	13.4	18.8
自分は将来、幸せになっている	17.4	34.2	47.8	36.5	30.9	34.0	37.5
自分は将来、結婚している	24.4	39.3	44.5	36.3	29.9	35.5	33.1
自分は将来、出世している	7.5	20.8	38.3	29.1	13.9	13.7	28.6

自分についてのイメージ

項目	日	韓	米	英	独	仏	ス
私は、自分自身に満足している	7.5	29.7	46.2	39.8	29.1	30.9	21.3
自分には長所があると思っている	15.2	32.1	57.2	41.6	43.6	33.1	26.0
自分の親から愛されている	35.2	48.9	66.7	62.6	61.8	61.8	63.4
今が楽しければよいと思う	15.3	32.4	23.1	26.0	43.4	45.2	19.1
自分は役に立たないと強く感じる	14.0	13.7	15.4	18.6	7.2	8.5	7.3

注1:「ス」は「スウェーデン」の略である(以下同じ)。

注2:数字は、「そう思う」という積極的な回答結果である(以下同じ)。

関係、地域社会・ボランティア関係、職業関係、学校関係及び家庭関係の6領域に及び、調査項目も21項目と多岐にわたっています。

本日は、この調査の中から、人生観に関連する調査結果に関して考えてみたいと思います。

まず、「自分に対するイメージ」「自分についての誇り」「将来への希望」に関して、それぞれの結果を見て置きましょう。

上記の表は、調査結果の一部に過ぎませんが、これをご覧になって、日本の若者

に対してどの様な印象をお持ちになったでしょうか。

自分に対して満足もしていないし、従って誇りも持てない。更には、将来への希望もないという、とても澁刺とした若者らしい姿は感じられません。

当の若者達からは、「勝手に若者のイメージを作られるのは迷惑だ」という声も聞こえて来そうですが、仮に、若者達を取り巻いている厳しい環境がそういわしめているとしても、可哀そうにさえ思えてなりません。

まず、「自分についてのイメージ」に関してですが、自分に満足している若者が他国の若者達と比べて極端に低いのは非常に問題だと思います。

日本の若者達は、自分の中にある良さに気付いていないという事かも知れませんが、自分に対する肯定感の低さは、全ての項目に大きな影響を与えています。

日本の若者達は、何故かくも自己肯定感が低いのか、私には明確に答える力はありませんが、一つ気になる数字があります。それは、自分は親に愛されていると感じている若者の少なさです。親からしっかりと愛された、あるいは愛されているという実感が無いというのは、自己肯定感の形成にとっては大きなマイナスであり、親子関係の在り方を見直していく事の重要性を改めて感じます。

自分に対する誇りについて、いずれも低い結果となっていますが、これは日本人特有の控えめさというより、自信の持てない自分に対して、誇りも持てないという事だろうと思います。

自分の将来に希望があるかと聞かれて、自信をもって「ある」と答える事の出来る若者が2割にも満たないというのは、驚くべき事です。将来の日本を彼らに託すのかと思うと、不安にさえなります。ただ、「自国のために役立つことをしたい」と考えている若者は54.5%と7か国中一番多い結果を示している事は、注目に値します。日本の若者も捨てたものじゃないという事です。実際、東日本大震災後、被災地でボランティア活動に従事した若者達が沢山いた事を思い出します。

今の若者達は、思いはあるけれど自分に自信がないために、一歩踏み出す勇気が持てないという事なのかも知れません。

漫画家の倉田真由美氏は、今回の調査結果について「生まれた時から景気が悪い今の若者には『どうせだめだから』と諦めのムードが漂っている。しかも周りに合わせて『空気を読む』事を意識しすぎて、背伸びや無理をしない。だから自己評価が低いのではないか」と述べています（5月26日付北海道新聞から）。

「背伸びや無理をしない」というのは、決して怠惰という事ではないでしょう。むしろ、今の若者達は、閉塞感の漂う状況の中で傷付く事を恐れ、また、他者を傷つける事もしたくないと考えているのではないのでしょうか。

だとすれば、ただ若者達を叱咤激励するだけでは、何の問題解決にも繋がらないという事は、明らかだと思います。（塾頭：吉田 洋一）